

2025 年度

授業科目名		ゲストサービスⅠ													
学科・コース		コンシェルジュ科													
担当教員		大石 麻美													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習		・講義		1		通年		必修		60		2			
授業目的 到達目標		テーマパークを中心にした、ゲストの心理と期待とは何かを知り、必要な表現力を習得します。ホスピタリティの在り方についてケーススタディ・ロールプレイングから学びます。													
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔			・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○
	プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～2	授業説明・自己紹介・ゲストサービスとは								① テーマパークの歴史を系統立てて理解できる ② ゲストサービスの構成要素と優先順位を理解できる ③ 幅広い年齢のゲストへの基本的な対応ができる ④ ゲストのご要望を察し行動できる ⑤ 特別な一日の演出に対する発想ができる ⑥ サービスリカバリーを理解し行動できる ⑦ 幅広い語彙力・表現力を習得できる					
	3～8	テーマパークの創業と歴史													
	9～14	キャストの職種理解													
	15～20	キャストの行動指針													
	21～26	キャストの育成													
	27～32	「テーマパーク」と「遊園地」の違い													
	33～38	テーマパークの職種													
	39～44	マジカルモーメントとは何か													
	45～50	サービスリカバリーとは何か													
	51～56	冬季研修準備													
	57～60	総括													
成績評価方法		出欠席（30％）授業態度（20％）提出課題（30％）定期試験結果（20％）													
使用テキスト／教材		・オリジナルテキスト ・「あなたに幸せの魔法をかけるディズニーランドの言葉」													
関連科目		ゲストサービスⅡ													
その他		・各自毎時間PCを持参する事。※実務経験のある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		表現技法基礎															
学科・コース		コンシェルジュ科															
担当教員		太田 玲子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・ 講義		1		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		TP0に応じた幅広い表現力の習得を目的とします。様々な台本やオリジナル原稿を使用し、発声の基本から正確に伝わる表情のある心地よい声、話し方、伝え方に磨きをかけていきます。フリーアナウンサーを目指し、キャリアアップに伴った接遇マナーを音声表現技術向上でバックアップしていきます。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		オリエンテーション 表現するとは 音声表現入門								① 自分の声を客観的に分析できる。						
	3～6		基本発声練習・短文								② 正しいプロの発声法が身につく						
	7～10		基本発声練習・商品PR1								③ 言葉に感情を乗せて表現する事ができる						
	11～14		基本発声練習								④ アナウンステクニックが身につく						
	15～16		前期試験								⑤ 人前で話す事がこわくなる						
	17～18		課題見つけ 基本発声練習 館内アナウンス初級								⑥ 文章を瞬時にわかりやすく伝える事ができる						
	19～22		基本発声練習・館内アナウンス応用								⑦ TP0に応じた伝え方、話し方ができる						
	23～26		基本発声練習・中文原稿入門								⑧ 幅広い表現力を身につける						
	27～28		基本発声練習 試験準備														
	29～30		後期試験														
成績評価方法		本試験(50%) 出席(20%) 日頃の取り組み(30%)															
使用テキスト／教材		配布プリント															
関連科目		表現技法応用															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

シラバス（授業概要） 2025 年度

シラバス（授業概要） 2025 年度

授業科目名		ユニバーサルランゲージ I																			
学科・コース		コンシェルジュ科																			
担当教員		ANNE CHRISTINE GALLARDO																			
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位									
演習		・ 講義		1		通年		必修		60		2									
授業目的 到達目標		全てのお客様にご満足いただくために、幅広いおもてなしの現場で求められる接客英会話を学びます。様々な場面を取り上げロールプレイングを行うことで職業への理解も深めます。																			
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド							
アクティブ ラーニング		事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション						PBL						模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標								
	1～4		Course Introduction										① Provide recommendations in English ② Handle Tour Reservations ③ Assist at Check-In using English ④ Deal with customer complaints in English ⑤ Answer tour questions in English								
	5～8		Recommending a Tour																		
	9～12		Taking a Tour Booking																		
	13～16		Escorting a Tour																		
	17～20		Welcoming International Tourists																		
	21～24		Taking an Airline Reservation																		
	25～28		Giving Flight Information																		
	29～32		Helping Passenger Check-in																		
	33～36		Working at the Boarding Gate																		
	37～40		Offering In-flight Services																		
	41～44		Taking Room Reservations																		
	45～48		Welcoming Guests																		
	49～52		Dealing with Complaints																		
	53～56		Sending Guests Off																		
57～60		Review																			
成績評価方法		出欠席（30％）授業態度（15％）提出課題（15％）定期試験結果（40％）																			
使用テキスト／教材		English for Tourism Professionals Student Book																			
関連科目		ユニバーサルランゲージⅡ、異文化接客																			
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。																			

2025 年度

授業科目名		異文化理解															
学科・コース		コンシェルジュ科															
担当教員		山梨千恵子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・演習		1		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		グローバル社会において必要な「異文化理解力」を身に付けるための素地を獲得することを目標とする。世界各国の文化を比較しながら、時候の文化、世界情勢、国際問題についての理解を深めます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		グローバル社会の基礎知識、「異文化理解力」とは								① 異文化理解の知識 ② ローコンテキスト文化・ハイコンテキスト文化の知識 ③ 移民についてのトピックの理解 ④ 世界三大宗教・世界の宗教についての基礎知識 ⑤ 世界の食文化の基礎知識 ⑥ 言語と文化についての基礎知識 ⑦ 世界遺産・文化財についての基礎知識 ⑧ 世界の美術・芸術についての基礎知識 ⑨ 世界経済の基礎知識 ⑩ 比較文化研究のプレゼンテーションができる						
	3～4		ハイコンテキスト文化・ローコンテキスト文化														
	5～6		文化の影響と社会制度・移民問題と多文化主義														
	7～10		世界の宗教・多文化共生社会														
	11～14		食文化・食習慣・風土・歴史														
	15～16		プレゼンテーション①														
	17～18		言語と文化・多種多様な非言語コミュニケーション														
	19～20		世界遺産・日本の文化遺産/文化財														
	21～22		美術と芸術														
	23～26		世界の経済と情報社会・デジタル化で変革する社会														
	27～30		プレゼンテーション②														
成績評価方法		出席率(50%)、授業レポート(30%)、プレゼンテーション(20%)															
使用テキスト／教材		授業内で配布する資料															
関連科目		異文化接遇、ユニバーサルランゲージⅡ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		コンシェルジュⅠ															
学科・コース		コンシェルジュ科															
担当教員		諏訪 好枝															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		1		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		接客・接遇を基本にあらゆる分野においても役に立ち通用する社会人として身につけておきたいスキルを学び、マニュアルにとらわれず自分自身で考える思考と行動力を目指します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・自己紹介・コンシェルジュとは								① マナーの必要性、意味を理解し 日常生活に活かしていく ②業種・分野に限定されない 社会人として必要な基本を会得する ③コミュニケーションスキルを養う ④自身で考える思考力と発想を伸ばす ⑤定型文に頼らない文章スキルを磨く ⑥語彙を増やす完成を磨く						
	3～6		基本マナー・挨拶・言葉遣い・社会常識とその意味合い														
	7～12		話し方・聴き方・会話のスキル・語彙について														
	13～20		言葉遣い・好ましい言い方・表現の言い換え														
	21～28		ビジネスマナー・ビジネスメール・報告書作成														
	29～30		前期試験														
	31～38		スピーチ・発表・発言・提案のスキルとは														
	39～46		電話応対について														
	47～52		プラスワントーク・臨機応変な対応力														
	53～58		まとめ・復習														
	59～60		後期試験（発表会）														
成績評価方法		出欠席（30％） 授業態度・発言（60％） 提出課題（5％） 試験結果（5％）															
使用テキスト／教材		・オリジナルテキスト ・「本物の接客」 ・講師作成レジュメ															
関連科目		コンシェルジュⅡ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		茶道・着付け																
学科・コース		コンシェルジュ科																
担当教員		見原 文子・中村 由美																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
実技				1		通年		必修		30		1						
授業目的 到達目標		日本の民族衣装である着物と茶道の知識を通じ、日本の伝統的な立ち居振る舞い身に付けることを目標とします。ビジネスシーンにも活かすことができるよう反復練習を行います。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ				
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		着物の基礎知識 歴史と種類 名称と畳み方								① 着物の種類を知ることができる ② 着物が自分で着れるようになる ③ 着物や帯を畳めるようになる ④ TP0に合わせ着物を選べるようになる ⑤ 美しい所作を身に付けることができる ⑥ 紐や帯の結び方が習得できる ⑦ お客様に気持ちの良い時間を提供できる ⑧ 亭主がお点前をしやすい気配りができる ⑨ 菓子や道具から季節を味わうことができる ⑩ お抹茶を点てることができる							
	3～4		浴衣の着付けと半幅帯の文庫結び															
	5～6		浴衣の着付けと半幅帯の文庫結び・帯のアレンジ															
	7～8		着物の着付け 長襦袢と着物の着方															
	9～10		着物の着付けと袋帯の結び方①															
	11～12		着物の着付けと袋帯の結び方②															
	13～14		着物を着た時の歩き方と座り方 和室のマナー															
	15～16		着物の選び方と買い方、着た後のお手入れ法															
	17～18		茶の湯の歴史 お点前の拝見															
	19～20		茶道具説明 菓子の取り方															
	21～22		畳の上での歩き方 お辞儀の仕方 準備と片付け															
	23～24		割り稽古（袱紗の扱い 茶筌通し）															
	25～26		お点前（客の作法、千家十職について）															
27～28		お点前総演習																
29～30		茶会																
成績評価方法		出欠席(25%)、授業態度(25%)、実技の習得度(50%)を踏まえ評価いたします。																
使用テキスト／教材		オリジナルテキスト・講師配布プリント																
関連科目		華道・総合ブランド理解																
その他		髪は纏め、シンプルな服装が望ましい。※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		EQ開発													
学科・コース		コンシェルジュ科													
担当教員		松永 祐子													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習		・講義		1		通年		必修		30		1			
授業目的 到達目標		社会人として必要となる自己調整力をさまざまな角度から学んでいきます。理論を理解するだけでなく、日常で実践することにより、自分らしい幸せな生き方・働き方を見つけていくことを目指します。自己診断ツールを活用した授業も行っています。													
授業手法		○		・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド							
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・自己紹介						①自己調整力を高めることができる ②他者との関係づくりのコツが分かる ③自分の感情を自分で調整できる ④自分の強みの理解と活用法が分かる ⑤出来事への正しい認知と行動が選べる ⑥ストレス耐性を高められる ⑦心の回復力を養うことができる ⑧自他への思いやりの効能を理解し 実践できるようになる						
	3～4		ウェルビーイング（良い状態を保つヒント）												
	5～6		強みを知り活かす方法（VIA-IS診断）												
	7～10		内的コントロール心理学①（欲求と願望）												
	11～14		内的コントロール心理学②（行動のしくみを知る）												
	15～16		怒り感情の取り扱い（怒りの仕組み）												
	17～18		怒り感情の取り扱い（怒りへの対処法）												
	19～22		ストレスマネジメント												
	23～26		レジリエンス（心の回復力を養う）												
	27～28		コンパッション（自他への思いやり）												
	29～30		前期試験												
成績評価方法		出欠席（30％）、授業態度（30％）、提出物（20％）、試験結果（20％）													
使用テキスト／教材		・オリジナルテキスト ・「親切は脳に効く」デビッド・ハミルトン著													
関連科目															
その他															

2025 年度

授業科目名		ホスピタリティマインド																
学科・コース		コンシェルジュ科																
担当教員		千葉 麻里																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・演習		1		通年		必修		60		4						
授業目的 到達目標		ホスピタリティマインド概論の基本的な知識と判断力を検定試験を通じ習得することを目標としています。毎授業小テストを実施し、理解を深め、ホスピタリティマインドの定着を図ります。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ				
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～4		授業説明・ホスピタリティとは								① 相手に寄り添った行動ができる ② 観察力を磨き、要望を察し行動することができる ③ 柔軟な提案力の向上が期待できる ④ 共感力の向上が期待できる ⑤ 効果的な伝え方・表現力の習得 ⑥ 傾聴力を養うことができる ⑦ 情報集約スキルの習得 ⑧ 語彙力の向上が期待できる ⑨ 自分自身を客観的に評価することができる ⑩ 自信をもって人前に立ち発言することができる							
	5～8		これからの社会とホスピタリティ															
	9～12		ホスピタリティ・マインドの育て方															
	13～16		ホスピタリティ・マナー															
	17～20		ホスピタリティ・コミュニケーション															
	21～22		前期試験															
	23～30		復習・ビジネスにおけるホスピタリティ															
	31～34		検定対策（模擬試験）															
	35～36		授業説明・プレゼンテーションの基本知識															
	37～40		自己紹介のプレゼンテーション ～お客様にファンになっていただくために～															
	41～44		S-AIRの体験入学時の学校紹介 ～コンシェルジュ自身が商品であること～															
	45～50		ポスターワーク ～宣伝内容をいかに魅力的に伝えるか～															
	51～54		良いサービス・悪いサービスとあなたが目指すおもてなし															
55～60		ミニセミナー開催																
成績評価方法		〔前期〕授業態度（15%） 出席率（15%） 小テスト（20%） 前期試験（50%） 〔後期〕授業態度（15%） 出席率（15%） 模擬・検定結果（40%） 発表（30%）																
使用テキスト／教材		「社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題」・オリジナルテキスト																
関連科目		総合ブランド理解																
その他		【後期】各自毎時間PC持参すること。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		カラーマーケティング															
学科・コース		コンシェルジュ科															
担当教員		千葉 麻里															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・ 演習		1		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		色彩の基礎をはじめとする、人に与える色の印象を利用したマーケティングについて学ぶことを目標としています。色の役割に着目し、見識を広げ、様々な業種で実務に活かせることができるよう、ペアワークやグループワークなどを通じて演習を行い学びを深めます。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・カラーマーケティングとは								① 色彩の基礎を理解することができる ② 色のイメージを言語化することができる ③ 色彩心理の特性を理解し、考察できる ④ 色彩の調和とバランスを理解し、提案できる ⑤ シチュエーションに応じた色彩提案ができる ⑥ 色彩感覚の向上が期待できる						
	3～4		色の基礎知識・色を与える影響と役割														
	5～10		色のイメージと心理効果														
	11～14		カラーコミュニケーション・配色テクニック														
	15～16		季節と色														
	17～18		食と色														
	19～20		前期試験														
	21～22		カラーブランディング・コーポレートカラー														
	23～24		店舗カラー														
	25～26		キャラクターカラー														
	27～28		カラーコラボレーション														
	29～30		後期試験														
成績評価方法		出席率（20％）・授業態度（30％）・課題提出（20％）・定期試験結果（30％）															
使用テキスト ／教材		オリジナルテキスト ・新配色カード158 a															
関連科目		リテールマーケティング															
その他		色鉛筆・はさみ・のり・PC ※実務経験のある教員が担当する科目である。															